

COLUMN: 先生紹介 ▶ 川田 歩 (関目教室)

勉強のコツは「弱点潰し」と「見直しの徹底」



はじめまして、関目教室で個別クラスを担当しています川田歩です。

私は中学1年生の夏から中学3年生まで関目教室に通っていました。そして住吉高校国際文化科に進学し、現在は神戸市外国語大学に通っています。

私は中学1年生の時から関目教室に通っていましたが、通い始めた当初は決して勉強ができるというわけではなく、むしろ勉強があまりできない方でした。しかし2年間カイチに通い、3年生になる頃には標準クラスから特進クラスに上がることができました。私は自分のこの経験から皆さんに伝えたいことがあります。それは、最初はどれだけ出来なくても、成績は上がるということです。成績を上げる1番の方法は『苦手

な分野を一つずつ潰していく』ということです。ただ、苦手な分野を潰すと言っても、自分の苦手な所がどこか分からない、という人もいます。そういう場合は普通の課題をしている時に、自分が分からない所がないかを注意しながら解くことがポイントです。そして少しでも分からないことがあればどんどん質問をし、苦手を潰していくことが大事です。いつも宿題などに追われて大変だと思いますが、それらをただ無心にするよりも、自分の苦手な範囲がないかを意識しながらの方が効果的です。

また、もう一つ私が重要と考えることは、『見直しを徹底する』ということです。テストを解く時、どれだけ気を付けていても計算間違いやスペルミス、いわゆる凡ミスというものは起こってしまいます。これはある程度仕方ないことですが、見直しをすれば自分の間違いに気づくことができます。自分が全く分からなかった問題よりも、正解できたはずの問題を間違えてしまう方が悔しいものです。では、どうすれば凡ミス

を減らせるか。それは普段小テストや宿題を解く時にも『見直しをする癖をつける』ということです。「普段の宿題や小テストにいちいち見直しをするなんて面倒くさい」と思ってしまうかもしれませんが、普段出来ていないことを本番で出来るなんてことはほとんどありません。これが普段から見直しをするということが大事な理由です。

私が今回書いた、苦手克服と見直しの徹底ということはおそらく学校の先生やカイチの先生からも口酸っぱく言われていることだと思います。しかし、成績を上げるために、これらの要素はそれだけ重要だということでもあるので、一度自分で、今回の記事の内容を実行できているか考えてみてください。私も昔はあまり勉強ができなかったのですが、そういう人の気持ちが少なからず理解できていると思います。もし分からないことがあれば気兼ねなく何でも聞いてください!皆さんの勉強の助けになれるように頑張っていきたいと思います。

高木の
ちょっと

TEACHER'S VOICE 高木 奈穂子 (古市教室)

イイ話

時間のある夏休み、思いっきり何かに取り組んでみませんか?



こんにちは。古市教室の高木奈穂子です。冒頭の塾長の話にもあったとおり、古市教室も子供達の熱気とパワーがみなぎっています。

現在、夏休み真っただ中。皆さんはどんなことに熱意を燃やし、取り組んでいるのでしょうか?中学3年生なら受験勉強?もしくは引退間

際の部活動?中学1・2年生はまさに部活動でしょうか?日々自らの成長を感じ、目標に向かって努力する経験は後に皆さんにとってかけがえのないものとなることでしょう。

日々の成長といえば、古市教室でもめざましい進歩をとげている生徒達がたくさんいます。中でも初めはおぼつかない指でそろばんを置いていた、年長さんのMちゃん。この数週間、
「分かりません。」と言うことがほとんど無くなり、「5たす7」、「6たす8」などのプログレスの問題をスラスラと一人でできるようになりました。よくよく本人に聞いてみると、「家で練習してる。」とのこと。もしかすると初めのうちは家で練習するのも嫌だったかもしれません。でも家でお母さんに見守られ、練習するうちにやがてお母さんに褒められるようになり、その上教室でも先生に褒められ、と自信をつけていったのでしょう。

このような経験こそが、次の課題へ取り組む糧となります。自らの力ですべきことを乗り越えた子供達はその後何かにつまずくことがあっても自分の力で対処できるようになります。

夏休みはこれらを学ぶ絶好の機会です。勉強、部活動、趣味、何でも構いません。思いっきり取り組んで、どのように自分が成長できるのか、9月の自分を想像してみてください。かく言う私もある趣味に取り組んでいます。皆さんに負けないよう、私も日々、努力したいと思います。



そろばんも勉強も秘訣は「暗記より理解」



生命力がみなぎっている子供達の顔。毎年「今年も夏が来たな」と感じる時です。子供達は太陽の日差しが強くなればなるほど、エネルギーが増してくるようです。その一方で7月は気温が体温よりも高い日が延々と続き、8月も猛暑は続きそうです。〈子の電話冷房入れて水飲めと〉小田島美紀子 (朝日新聞より)親も子も万全の暑さ対策で乗り切りましょう。

そろばんの入門の生徒達も、みんな夏のいい顔をしています。春先は「3+4」に苦戦していた彼らが、今は繰り上がり、繰り下がりの計算ができるようになり、中には23+38なども暗算で出来る子も出てきました。教室に入り、「そろばんの用意! 5、4、3…」とカウントダウンするとあっという間に、準備OKのサインで手を頭の上にして待っています。年長さん、1年生の子供達も、45分間、体を崩さず、分からないところも、きちんと手を挙げて質問できるようになりました。本当に将来が楽しみです。そろばん指導では、教え過ぎると成果が出なくなります。出来るだけ簡単に教えて、後は考えさせじっと待ちます。幼い彼らに、こんな指導で本当に理解出来るのかと不安になるかも知れませんが、これが飛躍的に伸びる最大の秘訣です。

丁寧に教えることは、一見、良いように見えますが、子供達は、言われた通り指を動かして問題を解いているだけで、頭を使っていません。一方、教えることを最小限にする子供達は、その僅かな情報と、今までの知識を組み合わせながら考えてそろばんを置きます。そろばんは、反復練習と思われがちですが、自分で獲得した理解の上で、反復練習することで、単なる反復練習よりも遙かに上達が早まります。低学年のうちに、勉強は暗記ではなく、知識を相互・相関でつなぎ合わせながら理解を積み上げることだと知ることで、先々の学力の伸びは大きく違います。この考えはカイチの幼児・低学年分野の全ての指導に通底している考えです。

小学部・中学部の勉強でも同じ事が言えます。今、小中学生の皆さんは夏期講習の真最中。このグロウイングが配られる頃には、日々の講習とその宿題に疲れて、情性で勉強している人が多くなっているのではないのでしょうか。確かに勉強は丸暗記すれば楽です。しかし、一つ一つを

なぜそのようになるのかを理解しながら進む(暗記事項でも、理由を理解してから暗記する)ことで、学習効率は飛躍的に上がります。

東京大学・大学院薬学系研究科教授の池谷裕二先生はその著書の中で、効率的学習法として方法記憶を挙げています。この方法記憶とは、物事を理解していく上で生じる、理解の仕方の記憶を表しています。物事の理解の仕方をパターンとして記憶することで、理解力が向上するだけでなく、先程のそろばんの例のように、新しく得た情報と従来の方法記憶を駆使することで、新しい理解を生み出すことが出来る。つまり、少ない記憶量で大きな成果を出すことが可能になります。

また、講習会などで広い範囲を総復習する際、意識して読んでも欲しいのがテキストの「目次」です。それにより、どのような単元をどのような順で勉強するのか、各単元はどのような関係があるのかを理解することができます。

例えば、中学2年生の英語のテキストの目次を見ると、中1ではbe動詞と一般動詞の現在形、中2でそれらの過去形と助動詞を学んでいることがわかります。要は、中1・中2ともに動詞の勉強をしているだけで、その違いは時制であること、また中2になると動詞の細かいニュアンスを表現するために助動詞を学んでいることがわかります。このような、教科全体を見渡し、大きな流れと単元の繋がりを知ることで、各単元の理解はずっと楽になります。

そして、ここで必然的に大切になるのが「なぜそうなるのか」という質問です。

「質問する生徒は絶対に伸びる。」その理由は、質問する生徒は、勉強を暗記ではなく、理解によって進めようとしているからです。そのような意味で、質問をする生徒は正しい勉強の仕方をしていると言えます。

「暗記より理解」

夏期講習も後半にさしかかっていますが、最終日の進研模試での自己ベストを目指し、もう一度、気持ち新たに夏期講習に取り組んでみましょう。補講日に学校の宿題をしに来るのもOKです。皆さんからの積極的な質問を待っています。

カイチからのお知らせ

- 学習部は7月23日(月)~8月25日(土)は学習部が夏期講習期間となり、通常授業と指導曜日・時間が異なります。詳しくは夏期講習のお知らせに記載しております。
- 夏期講習欠席生のために補講日を設定しています。補講日時については講習会のお知らせをご参照ください。
- 8月10日(金)~8月17日(金)は休講日とさせていただきます。

Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート



熊谷 周作 (今津教室)

今津教室の夏期講習 生徒・若手・ベテランで一丸となり爆走中!

今年度の今津教室の夏期講習は、今年の暑さにも負けにくい、例年以上に熱く、元気に満ちた夏期講習になっています。



▲隙間時間は自習室に。みんなクラブと勉強の両立に励んでいます。

この記事を書いている現在は、中学3年生は夏期講習第2チームです。まだまだクラブが終わらない受験生達ですが、授業に参加できなかった分は空いた時間に塾に来て、やり残しのないように穴埋めをしています。もちろんそんな生徒以外にも、中学3年生達は、朝から晩まで塾に来て自習をしています。小学部の授業がある時はその裏で自習を頑張り、授業後は残って質問や課題に励み、夜も同じように時間を使いながら頑張っています。中学3年生は、お盆休みの前に、これまでの勉強の達成具合をはかるプレテストがあります。この結果を基に、残りの夏期講習をどう過ごすのかを再度考え直します。今年度は受験対策講座の達成表を完成させるべく、みんな必死で頑張っています。消化が遅れている生徒は、優先順位を決め、苦手な教科に取り組むよう相談しながら、進めています。



▲受験生の頑張りの原動力は志望校合格への目的意識

こうして受験生が頑張っているのは、各自が夏期講習前に志望校を決め、明確な目標を持っていることにあると思います。先日行った、中学生対象の教育講演会においても、目標の大事さを説明しましたが、やはり目標を持っている生徒とそうでない生徒とは、突進力、しんどい時でもやり切る力が全然違うように思います。



もちろん私達、講師陣も熱気のコもった授業で生徒達の頑張りに応えています。この際、大きな力となっているのが若い先生達の力です。少しでもついてきていないと感じたら、事細かに声掛けをし、質疑応答や補習をしてくれています。自分の担当教科以外の教科の補習や、質問も積極的に対応し、少しでも空いた時間があれば、生徒達に声掛けを行い、指導にあたってくれています。

今回夏期講習で特に意識しているのが、どの学年でも最低限やり切らせる内容を考え、徹底的にさせることです。やり切る内容もただ単にやるのではなく、暗記であれば、しっかり覚えるまで、理解するものであれば、本当に理解できているのかの確認を徹底しています。ですので、小テストが満点で終わりというわけで

はなく、最後に各先生の所に持っていき、最終チェックを受けなければなりません。中身をしっかりと覚えているのか、理解しているのかを質問をして内容を確認します。



▲先生達も皆さんを全力でサポートします。

中学2年生達は、すでにやる事がわかっている、要領良く各項目を終えていきます。生徒各自で、わからない箇所や、演習が不足していると感じた時には、作問依頼を使い、理解を徹底してくれています。一方、新米の中学1年生は、試行錯誤しながら要領を掴もうとしている感じです。ただこの学年は、活気があり質問が多いのが特徴です。授業後の質問ラッシュには私達がパテてしまいます。このような雰囲気を作れているのも、やはり若い先生達の熱心な声掛けの賜物だと感じています。

夏期講習もいよいよ後半戦。みんなの努力を成果に出来るよう、スタッフが一丸となって頑張っていきたいと思っています。



Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



坪田 陽一 (諸口教室)

夏期講習、何のために参加する?

毎日暑いですね。この記事が出る頃はもうお盆休みは過ぎてしまっていますか。カイチ生は、年中さんから中高生にいたるまで、猛暑に負けず、またゲリラ豪雨にも負けず、頑張っている保護者の方も、毎週暑くて大変な思いをされていると思います。中には2人も3人も連れて自転車で来られる方も…本当に頭が下がります。くれぐれもお体に気を付けてお過ごし下さい。

さて、今は夏期講習の真最中。生徒の皆さんに今更ですが質問です。「あなたが夏期講習に参加する目的は何でしょうか?」先を読まずにちょっと考えてみて下さい。

…答えは出ましたか?

まず「親に言われたから」「塾生は必修と言われたから」と答えた人。確かにそれはきっかけとしてあるかもしれませんが、でも、そんな他人任せの理由では、せっかく長い時間塾に通っていても、楽しくないしやる気も出ないでしょう?学習効果も上がりません。何のために参加しているのか、後付けでもいいのできちんと考えましょう。特に中学生で「親に言われたから」泣々来ているという人は、少々甘えが過ぎるのではと思います。中学生ならなぜ今勉強しなければならないのか、自分なりの答えを持っているはず。お金を出してくれる親に感謝しつつ、主体的に参加して欲しいと思います。

さて、ほとんどの人が次のような答えではないでしょうか。

「2学期に備えて復習するため」
「復習をして夏明けの成績を上げるため」
「偏差値を上げて志望校に合格するため」
等々…

もちろん、塾が夏期講習を実施する意図はこれです。学校の授業がストップしているこの時期に、これまでの総復習や2学期の予習をすることで、今後の学習をスムーズにする。まとまった勉強時間がとれるので、効率的に復習ができ、苦手科目も克服できる。特に1学期でテストの点数が悪かった人は、ここで挽回するチャンスが与えられるわけです。また、中3については、9月以降にある実力テストや五ツ木模擬テストの結果によって、私立併願校が決められます。相応の私立に併願で合格することで、ようやく公立第一志望に挑戦できること

になります。だからこの夏、苦手科目や単元を徹底的に潰し、少しでも偏差値を上げるべし!…中3生は三者面談でも言われていることだと思います。

しかし、これらはあくまでも一般論。誰にでも当てはまることであり、とっても抽象的だと思いませんか?

もう一度聞きます。「あなたが夏期講習に参加する目的は何でしょうか?」

漠然とした目的のまま参加し、終わった後「夏期講習で何が得られた?」と聞かれたときに、明確に答えられるでしょうか。

言いたいのは、目的をもっと具体化して欲しいということです。「何を」「どのくらい」復習すべきかは、人によって全く違うはず。どの教科のどの単元でつまづいているのか。得意科目でも、さらに伸ばせる単元はどこか。そうやって絞り込むことで、「自分が」夏期講習に来る目的がより明確になるはず。過去に受けた模試や実力テストを参考に考えてみていいでしょう。

例えば数学で、中2の「一次関数」から分らなくなった、ということであれば、その単元を最優先で復習する必要があります。逆に言えば、それ以前の内容は「自分にとって」それほど重要ではないということ。講習では、「一次関数」の授業は1,2コマしかないかもしれませんが、その回はしっかりと授業を聴き、分からないところをチェックし、居残りしたり別日に来て質問したり、とにかく「一次関数」を理解することに集中するわけです。それ以外の単元は、自分がきちんと理解していることを「確認」し、細かいミスや思い込みや勘違いを「修正」するだけ。

そのようにしてメリハリをつけていくことが大切です。ただ、自分では理解していたつもりで間違いが多い場合は、その単元の復習の優先順位を上げる必要はあります。

また、自分の苦手を発見するために有効なのが、学校や塾で出される課題です。

特に中3については、授業毎課題を出しますし、学校からも大量の課題が出されていることと思います。しかし、これらをただこなすだけでは意味がありません。そういった課題はあくまでも「苦手を発見するためのツール」だ

と考えましょう。一つ一つ丁寧に解き、苦手だと思ったらきちんと復習する(解き直し、ノートにポイントをまとめる。関連事項を付加する。作問依頼を出して類題演習等)。あまりに苦手単元が多い場合はそこから更に絞り込む必要があります。先生に優先順位をつけてもらい、一つ一つ確実に弱点を潰していきましょう。

中3生にとって、夏期講習は本当に大事な期間です。部活引退がまだで、講習に思ったように来られない人もいるでしょうが、大事なものは一つでも多くの「苦手」を発見し、それを「得意」に変えること。それは授業を受けずともできます。問題をたくさん解き、授業時間外でも先生をつかまえて質問攻めにしましょう。長年中3生を見ていると、夏期講習中の質問量によって、2学期以降の伸びが決まるといっても過言ではありません。

残りの夏休み期間、主体的に、明確な目的意識を持って講習会に参加してください。

